正誤表

○ 高等学校　保健体育　22ページ　〔9〕　問2

（誤）

４の５　不正交代をしたプレーヤーは，［　ウ　］退場となる。同じチームの２名以上のプレーヤーが一度に不正交代をした場合，［　エ　］違反したプレーヤーへのみ罰則が適用される。この場合，相手チームの［　オ　］で競技を再開する。

（正）

４の５　不正交代をしたプレーヤーは，［　ウ　］退場となる。同じチームの２名以上のプレーヤーが一度に不正交代をした場合，［　エ　］違反したプレーヤーにのみ罰則が適用される。この場合，相手チームの［　オ　］で競技を再開する。

kyosai-guild.jp

7〔高等学校　保健体育〕

受験区分	受験番号	氏　　名

〔注意事項〕

1　試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2　この試験は、コンピュータを利用して採点するため、解答用紙にていねいに鉛筆で記入してください。

3　解答用紙には解答記入欄以外に次の記入があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

（1）受験区分・受験番号欄

受験区分・受験番号（数字）を受験票のとおりに記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合には、採点できないことがあります。

（2）氏名欄、校種等・教科（科目）欄

氏名・フリガナ及び校種等・教科（科目）を記入してください。なお、校種等・教科（科目）については、受験票のとおりに記入してください。

4　試験時間は60分です。

5　解答は、解答用紙の解答記入欄にマークしてください。例えば、［ 1 ］と表示のある解答番号に対して③と解答する場合は、次の（例）のように解答番号［1］の解答記入欄の③にマークしてください。

（例）

解答番号	解答記入欄 1 － 20
［1］	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

6　解答用紙の解答記入欄は、全部で、［100］まで記入できるようになっていますが、〔高等学校　保健体育〕試験の解答番号は１～43ですので、解答記入欄の［44］～［100］は絶対に記入しないでください。

7　どの問題も、解答番号一つにつき解答記入欄にマークできる答えは必ず一つです。二つ以上の番号にマークしたものは採点されません。

8　解答番号のマークを間違えたときは、消しゴムで完全に消してからマークしてください。

9　計算を要する問題は、問題用紙の余白を利用してください。解答用紙で計算しないでください。

10　問題の内容についての質問はできません。

〔1〕「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　保健体育編（平成29年７月）」及び「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」に示されている内容について、次の各問いに答えなさい。

問１　次の記述は、球技のネット型のボールや用具の操作とボールを持たないときの動きの例について示されているものの一部である。

［ 1 ］、［ 2 ］、［ 3 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、それぞれの語群の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 1 ］、［ 2 ］、［ 3 ］。

ボールや用具の操作	・サービスでは，ボールをねらった場所に打つこと ・ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すこと ・攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さと位置にボールを上げること ・ネット付近でボールの［ 1 ］を防いだり，打ち返したりすること ・腕やラケットを強く振って，ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと ・［ 2 ］の役割に応じて，拾ったりつないだり打ち返したりすること
ボールを持たないときの動き	・ラリーの中で，味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること ・［ 3 ］のための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと

中 学 校：第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各分野の目標及び内容〔体育分野〕　２　内容　E　球技　ネット型のボールや用具の操作とボールを持たないときの動きの例　中学校３年

高等学校：第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容「体育」　３　内容　E　球技　ネット型のボールや用具の操作とボールを持たないときの動きの例　中学校３年生　高校入学年次

［ 1 ］の語群

① 侵入　② コース　③ 勢い　④ 変化

［ 2 ］の語群

① 自己　② チーム　③ ポジション　④ 技能

［ 3 ］の語群

① 個人プレイ　② 連携プレイ　③ 勝利　④ 得点

kyosai-guild.jp

問２　次の記述は、教育課程外の学校教育活動と教育課程との関連について示されているものの一部である。

［ 4 ］、［ 5 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、それぞれの語群の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 4 ］、［ 5 ］。

> ウ　教育課程外の学校教育活動と教育課程の関連が図られるように留意するものとする。特に，生徒の自主的，自発的な参加により行われる部活動については，スポーツや文化，科学等に親しませ，学習意欲の向上や責任感，連帯感の涵養等，［ 4 ］が目指す資質・能力の育成に資するものであり，［ 4 ］の一環として，教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際，学校や地域の実態に応じ，地域の人々の協力，社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い，［ 5 ］な運営体制が整えられるようにするものとする。

中 学 校：第３章　指導計画の作成と内容の取扱い　３　教育課程外の学校教育活動と教育課程との関連（第１章第５の１のウ）

高等学校：第３章　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い　第３節　総則関連事項　２　教育課程外の学校教育活動と教育課程との関連（第１章総則第６款１ウ）

［ 4 ］の語群

①　社会教育　　②　地域教育　　③　学校教育　　④　国際教育

［ 5 ］の語群

①　常識的　　②　永久的　　③　社会規範的　　④　持続可能

kyosai-guild.jp

〔２〕「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き（令和３年５月、令和６年４月追補版）環境省・文部科学省」に示されている内容について、次の問いに答えなさい。

次の記述は、授業日の対応について示されているものの一部である。

［ 6 ］、［ 7 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、それぞれの語群の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 6 ］、［ 7 ］。

5.2　授業日の対応

5.2.1　体育、スポーツ活動時の対策

(1) グラウンド・体育館での活動

授業や活動前にグラウンド・体育館などの活動場所で［ 6 ］を測定し、対応を判断します。［ 6 ］は、測定場所・タイミングで異なります。また、授業が始まると測定が疎かになる場合もあります。測定者も含め測定方法を予め設定することが重要です。また、［ 7 ］発表時には測定頻度を高くし、［ 6 ］の変化に十分留意します。

［ 6 ］の語群

① 暑さ指数（WBGT）　② 乾球温度
③ 気温及び湿度　④ 気温、湿度及び気流

［ 7 ］の語群

① 光化学スモッグ警報　② 高温注意報
③ 光化学スモッグ注意報　④ 熱中症警戒アラート

kyosai-guild.jp

〔３〕「学校における水泳事故防止必携〔2018年改訂版〕独立行政法人日本スポーツ振興センター」に示されている内容について、次の問いに答えなさい。

次の記述は、水泳の安全管理について示されているものの一部である。

［ 8 ］、［ 9 ］、［ 10 ］に当てはまるものとして最も適切なものを、それぞれの語群の①～④のうちから選びなさい。解答番号は［ 8 ］、［ 9 ］、［ 10 ］。

Ⅲ 水泳の安全管理

～中略～

３．水泳指導における安全管理

(1) 事前の留意事項

ア．水泳指導のねらいや安全に関する学校の対策について、［ 8 ］に連絡し、理解と協力を得る。

イ．水泳指導の参加が認められない児童生徒等や注意を要する者への配慮について、検討しておく。

ウ．［ 9 ］を行い、昨年度までの泳力や水泳に関する意識等を調べておいて、指導の参考にする。

エ．特に大切な安全上の注意事項を参加者に指導しておく。

オ．事故による被害を最小限に食い止めるため、［ 10 ］対策組織を作り、対応を指導者全員に徹底しておく。また、救急法の講習を行い、実技を通して理解を深めておく。

［ 8 ］の語群

① 近隣住民　② 教職員　③ 保護者　④ 行政

［ 9 ］の語群

① 実態調査　② 指導法検討　③ 現地調査　④ 職員意識調査

［ 10 ］の語群

① 地域　② 救急　③ 保護者　④ 教職員

kyosai-guild.jp

〔4〕「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年7月）」に示されている内容について、次の各問いに答えなさい。

問1　次の記述は、改訂の基本方針について示されているものの一部である。

［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［11］。

> **2　改訂の基本方針**
>
> ～中略～
>
> **(3)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進**
>
> ～中略～
>
> 特に，高等学校教育については，大学入学者選抜や資格の在り方等の外部要因によって，その教育の在り方が規定されてしまい，目指すべき教育改革が進めにくいと指摘されてきたところであるが，今回の改訂は，［ア］という，高等学校教育を含む初等中等教育改革と，大学教育の改革，そして両者をつなぐ大学入学者選抜改革という［イ］改革や，更に，［ウ］の視点で学校と社会の接続を目指す中で実施されるものである。改めて，高等学校学習指導要領の定めるところに従い，各高等学校において生徒が卒業までに身に付けるべきものとされる［エ］を育成していくために，どのようにしてこれまでの授業の在り方を改善していくべきかを，［オ］が考える必要がある。

（第1部　保健体育編　第1章　総説　第1節　改訂の経緯及び基本方針　2　改訂の基本方針）

［11］の解答群

① ア　高大接続改革　イ　段階的な　ウ　生涯学習　エ　個性や人間性　オ　国や各教育委員会

② ア　高大接続改革　イ　一体的な　ウ　キャリア教育　エ　資質・能力　オ　各学校や教師

③ ア　高大接続改革　イ　一体的な　ウ　キャリア教育　エ　個性や人間性　オ　国や各教育委員会

④ ア　一貫教育改革　イ　段階的な　ウ　生涯学習　エ　資質・能力　オ　各学校や教師

⑤ ア　一貫教育改革　イ　一体的な　ウ　生涯学習　エ　資質・能力　オ　各学校や教師

⑥ ア　一貫教育改革　イ　段階的な　ウ　キャリア教育　エ　個性や人間性　オ　国や各教育委員会

kyosai-gunma.jp

問２　次の記述は、保健体育科改訂の趣旨について示されているものの一部である。

［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［12］。

> **１　保健体育科改訂の趣旨**
>
> ～中略～
>
> **③　改善の具体的事項**
>
> ～中略～
>
> (ｱ)　各領域で身に付けたい具体的な内容を，資質・能力の三つの柱に沿って明確に示す。特に，『［ア］』及び『学びに向かう力・人間性等』の内容の明確化を図る。また，［イ］，年齢や性別及び［ウ］等にかかわらず，運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践することができるよう配慮する。
>
> (ｲ)　体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに，［エ］に応じて自ら［オ］方法を身に付け，運動やスポーツの習慣化につなげる観点から，体つくり運動の内容等について改善を図る。

（第１部　保健体育編　第１章　総説　第２節　保健体育科改訂の趣旨及び要点　１　保健体育科改訂の趣旨）

［12］の解答群

① ア　思考力・判断力・表現力等　　イ　経験の有無　　ウ　障害の有無
　エ　興味・関心　　オ　進んで運動する

② ア　思考力・判断力・表現力等　　イ　体力や技能の程度　　ウ　活動の場
　エ　健康や体力の状況　　オ　体力を高める

③ ア　思考力・判断力・表現力等　　イ　体力や技能の程度　　ウ　障害の有無
　エ　健康や体力の状況　　オ　体力を高める

④ ア　知識・技能　　イ　体力や技能の程度　　ウ　活動の場
　エ　興味・関心　　オ　進んで運動する

⑤ ア　知識・技能　　イ　経験の有無　　ウ　活動の場
　エ　健康や体力の状況　　オ　体力を高める

⑥ ア　知識・技能　　イ　経験の有無　　ウ　障害の有無
　エ　興味・関心　　オ　進んで運動する

kyosai-guild.jp

問３　次の記述は、保健体育科改訂の要点について示されているものの一部である。

［ ア ］～［ オ ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［ 13 ］。

２　保健体育科改訂の要点

～中略～

(1) 目標の改善

～中略～

各科目の目標については次のとおりである。

「体育」の目標については，小学校から高等学校までの12年間を見通した体系化の最終段階となることから，中学校までの学習の成果を踏まえ，卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにすることが求められる。

～中略～

(1)　運動の合理的・計画的な実践を通して，［ ア ］や喜びを深く味わい，生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため，運動の多様性や［ イ ］の必要性について理解するとともに，技能を身に付けるようにする。

(2)　生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し，合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを［ ウ ］を養う。

(3)　運動における競争や［ エ ］の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，参画する，一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに，健康・安全を確保して，生涯にわたって［ オ ］運動に親しむ態度を養う。

（第１部　保健体育編　第１章　総説　第２節　保健体育科改訂の趣旨及び要点　２　保健体育科改訂の要点）

［ 13 ］の解答群

① ア　種目の特性　イ　健康　ウ　実際に表現する力　エ　協働　オ　積極的に

② ア　運動の楽しさ　イ　健康　ウ　他者に伝える力　エ　勝敗　オ　継続して

③ ア　種目の特性　イ　体力　ウ　他者に伝える力　エ　勝敗　オ　継続して

④ ア　運動の楽しさ　イ　体力　ウ　実際に表現する力　エ　協働　オ　積極的に

⑤ ア　種目の特性　イ　健康　ウ　実際に表現する力　エ　勝敗　オ　積極的に

⑥ ア　運動の楽しさ　イ　体力　ウ　他者に伝える力　エ　協働　オ　継続して

kyosaisyuu.jp

問4　次の記述は、体育の目標について示されているものの一部である。

［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［14］。

> **2　目標**
>
> ～中略～
>
> **運動の合理的，計画的な実践**とは，［ア］や運動の特性や魅力に応じて，技術の名称や行い方，運動に関わる一般原則や運動に伴う事故の防止等などを［イ］に理解した上で合理的に運動を実践するとともに，計画を立て，実践し，評価するといった課題解決の方法などを活用して運動を実践することを意味している。
>
> **運動の楽しさや喜びを深く味わい**とは，［ウ］を身に付けたり，作戦を立てたり，作品をまとめたりするなどの学習を通して，［エ］，課題の解決を目指して取り組むことにより，［オ］にとどまらず，その運動のもつ特性や魅力に深く触れることを示している。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容「体育」　２　目標）

［14］の解答群

① ア　経験の有無　イ　総合的　ウ　知識　エ　公平・公正な態度を養い　オ　一過性の楽しさ

② ア　発達の段階　イ　総合的　ウ　技能　エ　公平・公正な態度を養い　オ　一過性の楽しさ

③ ア　経験の有無　イ　科学的　ウ　知識　エ　仲間と適切な関係を築き　オ　基本技能の習得

④ ア　発達の段階　イ　科学的　ウ　知識　エ　仲間と適切な関係を築き　オ　基本技能の習得

⑤ ア　経験の有無　イ　総合的　ウ　技能　エ　公平・公正な態度を養い　オ　基本技能の習得

⑥ ア　発達の段階　イ　科学的　ウ　技能　エ　仲間と適切な関係を築き　オ　一過性の楽しさ

kyosai-guild.jp

問５　次の記述は、体育の内容について示されているものの一部である。

［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［15］。

> **Ｅ　球技**
>
> ～中略～
>
> **内容の取扱い**
>
> ～中略～
>
> (ｲ)　球技は，「ア　ゴール型」，「イ　ネット型」及び「ウ　ベースボール型」で示している。なお，取り扱う運動種目は，ゴール型については，バスケットボール，ハンドボール，サッカー，ラグビーの中から，ネット型については，バレーボール，卓球，テニス，バドミントンの中から，ベースボール型については，ソフトボールを適宜取り上げることとしている。そのため，入学年次においては，三つの型の中から［ア］の型を，その次の年次以降においては，三つの型の中から［イ］の型を選択して履修できるようにすることとしている。その際，履修できる運動種目の数については，［ウ］，指導内容の習熟を図ることができるよう，十分な時間を配当すること。また，生徒の体力や技能の程度に応じて健康・安全の確保に配慮することが大切である。
>
> (ｳ)　学校や地域の実態に応じて，その他の運動についても履修させることができることとしているが，原則として，その他の型及び運動は，内容の取扱いに示された各型及び運動種目に［エ］履修させることとし，学校や地域の特別の事情がある場合には，［オ］履修させることもできることとする。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容「体育」　３　内容）

［15］の解答群

① ア　一つ　　イ　二つ　　ウ　複数の運動種目を選択させ　　エ　加えて　　オ　替えて

② ア　二つ　　イ　一つ　　ウ　複数の運動種目を選択させ　　エ　替えて　　オ　加えて

③ ア　一つ　　イ　二つ　　ウ　特に制限は設けていないが　　エ　加えて　　オ　替えて

④ ア　二つ　　イ　一つ　　ウ　特に制限は設けていないが　　エ　加えて　　オ　替えて

⑤ ア　一つ　　イ　二つ　　ウ　複数の運動種目を選択させ　　エ　替えて　　オ　加えて

⑥ ア　二つ　　イ　一つ　　ウ　特に制限は設けていないが　　エ　替えて　　オ　加えて

kyosai-guild.jp

問6　次の記述は指導計画作成上の配慮事項について示されたものの一部である。

［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［16］。

> 1　「体育」
>
> ～中略～
>
> (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
>
> ～中略～
>
> 保健体育科においては，例えば次の視点等を踏まえて［ア］を行うことにより，育成を目指す資質・能力を育んだり，体育や保健の見方・考え方を更に豊かなものにしたりすることにつなげることが大切である。
>
> ・運動の楽しさや健康の意義等を発見し，運動や健康についての興味や関心を高め，課題の解決に向けて［イ］自ら取り組み，学習を振り返るとともにそれを考察し，課題を修正したり新たな課題を設定したりするなどの主体的な学びを促すこと。
>
> ・運動や健康についての課題の解決に向けて，生徒が他者（［ウ］等を含む）との対話を通して，自己の思考を広げ深め，課題の解決を目指して学習に取り組むなどの対話的な学びを促すこと。
>
> ・習得・活用・［エ］という学びの過程を通して，自他の運動や健康についての課題を発見し，解決に向けて試行錯誤を重ねながら，［オ］，よりよく解決するなどの深い学びを促すこと。

（第１部　保健体育編　第３章　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い
第１節　指導計画作成上の配慮事項　１　体育）

［16］の解答群

①	ア	授業改善	イ	意欲的に	ウ	書物	エ	探究	オ	知識を広げ
②	ア	授業改善	イ	粘り強く	ウ	書物	エ	探究	オ	思考を深め
③	ア	授業改善	イ	粘り強く	ウ	情報	エ	表現	オ	思考を深め
④	ア	年間計画	イ	意欲的に	ウ	情報	エ	表現	オ	知識を広げ
⑤	ア	年間計画	イ	粘り強く	ウ	書物	エ	探究	オ	知識を広げ
⑥	ア	年間計画	イ	意欲的に	ウ	情報	エ	表現	オ	思考を広め

kyosaiguild.jp

問7　次の記述は指導計画作成上の配慮事項について示されたものの一部である。

［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［17］。

1　「体育」

～中略～

(2) 体育・健康に関する指導との関連

(2) 第1章第1款の2の(3)に示す学校における体育・健康に関する指導の趣旨を生かし，特別活動，［ア］などとの関連を図り，日常生活における体育・健康に関する活動が適切かつ継続的に実践できるよう留意すること。なお，［イ］については，計画的に実施し，運動の指導及び体力の向上に活用するようにすること。

～中略～

特に，学校における［ウ］の推進並びに体力の向上に関する指導，安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については，保健体育科，［エ］及び特別活動の時間はもとより，各教科，道徳科及び総合的な探究の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また，それらの指導を通して，家庭や地域社会との連携を図りながら，日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し，生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう［オ］すること。」と示している。

（第1部　保健体育編　第3章　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い
第1節　指導計画作成上の配慮事項　1　体育）

［17］の解答群

① ア　運動部の活動　イ　体力の測定　ウ　性教育　エ　学校行事　オ　配慮
② ア　運動部の活動　イ　運動習慣の定着　ウ　食育　エ　技術・家庭科　オ　指導
③ ア　運動部の活動　イ　体力の測定　ウ　食育　エ　技術・家庭科　オ　配慮
④ ア　体育的行事　イ　体力の測定　ウ　食育　エ　学校行事　オ　指導
⑤ ア　体育的行事　イ　運動習慣の定着　ウ　性教育　エ　技術・家庭科　オ　配慮
⑥ ア　体育的行事　イ　運動習慣の定着　ウ　性教育　エ　学校行事　オ　指導

kyosai-guide.jp

問８　次の記述は指導計画作成上の配慮事項について示されたものの一部である。

［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［18］。

> 1　「体育」
>
> ～中略～
>
> (3)「体育」の授業時数等の配当
>
> ～中略～
>
> 〈各年次の「体育」の単位数〉
>
> 「体育」の単位数は，従前どおり，標準単位数を７～８としている。
>
> 「体育」の単位数の各年次別の配当については，各年次継続して履修できるようにするとともに，各年次になるべく均分して配当することとしている。これは，知・徳・体の調和のとれた教育課程を編成するという観点と総則に示す「健やかな体」で求めている体力の向上，健康の保持増進，さらには，日常生活における［ア］の実践を促すという観点などによるものである。
>
> 〈各領域に配当する授業時数〉
>
> 「体育」の指導計画の作成に当たっては，特に，体つくり運動については，各年次で［イ］単位時間～［ウ］単位時間程度を，体育理論については，各年次で［エ］単位時間以上を配当することとし，指導内容の確実な定着が図られるようにしている。
>
> ～中略～
>
> また，一つの領域の内容に習熟させるには，授業をある期間に集中して行うか，あるいは年間にわたって［オ］に行うかについて十分検討する必要がある。

（第１部　保健体育編　第３章　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い
第１節　指導計画作成上の配慮事項　１　体育）

［18］の解答群

①	ア	豊かなスポーツライフ	イ	7	ウ	10	エ	5	オ　分散的
②	ア	豊かなスポーツライフ	イ	8	ウ	10	エ	6	オ　継続的
③	ア	豊かなスポーツライフ	イ	8	ウ	9	エ	5	オ　分散的
④	ア	適切な体育的活動	イ	8	ウ	9	エ	5	オ　継続的
⑤	ア	適切な体育的活動	イ	7	ウ	10	エ	6	オ　継続的
⑥	ア	適切な体育的活動	イ	7	ウ	9	エ	6	オ　分散的

kyosai-guild.jp

問９　次の記述は内容の取扱いに当たっての配慮事項について示されたものの一部である。［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［19］。

２　情報機器の活用等に関する配慮事項

(2) 各科目の指導に当たっては，その特質を踏まえ，［ア］，コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し，学習の効果を高めるよう配慮すること。

情報活用能力とは，世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し，情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して，問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力のことである。将来の予測が難しい社会においては，情報や情報技術を受け身で捉えるのではなく，［イ］として活用していく力が求められる。未来を拓(ひら)いていく子供たちには，情報を［ウ］に捉えながら，何が重要かを［ウ］に考え，見いだした情報を活用しながら他者と［エ］し，新たな価値の創造に挑んでいくことがますます重要になってくる。また，情報化が急速に進展し，身の回りのものに情報技術が活用されていたり，日々の情報収集や身近な人との情報のやりとり，生活上必要な手続など，日常生活における営みを，情報技術を通じて行ったりすることが当たり前の世の中となってきている。情報技術は今後，私たちの生活にますます身近なものとなっていくと考えられ，情報技術を［イ］として活用していくことができるようにしていくことも重要である。

（第１部　保健体育編　第３章　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い　第２節　内容の取扱いに当たっての配慮事項　２　情報機器の活用等に関する配慮事項）

［19］の解答群

① ア　幅広い分野で　イ　技能　ウ　客観的　エ　連携
② ア　幅広い分野で　イ　手段　ウ　主体的　エ　連携
③ ア　幅広い分野で　イ　技能　ウ　客観的　エ　協働
④ ア　必要に応じて　イ　技能　ウ　主体的　エ　連携
⑤ ア　必要に応じて　イ　手段　ウ　主体的　エ　協働
⑥ ア　必要に応じて　イ　手段　ウ　客観的　エ　協働

kyosai-guild.jp

問10　次の記述は内容の取扱いに当たっての配慮事項について示されたものの一部である。［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［20］。

5　「体育」と「保健」の関連

～中略～

なお，科目体育と科目保健の関連を図る工夫の例としては，次のようなものが考えられる。

・体育の「A体つくり運動」のア「体ほぐしの運動」では具体的な［ア］の視点から，保健の(1)「現代社会と健康」のア(オ)「精神疾患の予防と回復」では精神疾患への対処の視点から，それぞれ取り上げているので，この点を十分考慮して関連のある指導を工夫する。

・体育の「［イ］」の事故防止に関する心得では具体的な態度の視点から，保健の(2)「安全な社会づくり」のア(イ)「応急手当」では応急手当の適切な対処の視点から，それぞれ取り上げているので，この点を十分考慮して関連のある指導を工夫する。

・体育の「H体育理論」の2「運動やスポーツの［ウ］な学習の仕方」では健康の保持増進を図るための方法等の視点から，保健の(1)「現代社会と健康」では生活習慣病などの予防と回復の視点から日常生活にスポーツを計画的に取り入れることの重要性について，それぞれ取り上げているので，この点を十分考慮して関連のある指導を工夫する。

・体育の「A体つくり運動」から「Gダンス」の(3)学びに向かう力，人間性等の「［エ］」では運動実践の場面での行動の視点から，保健の(4)「健康を支える環境づくり」では地域の保健・医療機関の活用の視点から，生涯スポーツの実践を支える環境づくりやその活用について，それぞれ取り上げているので，この点を十分考慮して関連のある指導を工夫する。

・［オ］におけるカリキュラム・マネジメントを実現する観点から，体育と保健の関連する事項を取り上げる際，指導する時期を適切に設定した年間指導計画を工夫する。

（第１部　保健体育編　第３章　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い
第２節　内容の取扱いに当たっての配慮事項　5　「体育」と「保健」の関連）

［20］の解答群

①	ア	運動	イ	D水泳	ウ	効果的	エ	健康・安全	オ	教科内
②	ア	運動	イ	F武道	ウ	効果的	エ	参画・共生	オ	教科内
③	ア	運動	イ	D水泳	ウ	合理的	エ	健康・安全	オ	学校全体
④	ア	技能	イ	F武道	ウ	効果的	エ	参画・共生	オ	学校全体
⑤	ア	技能	イ	D水泳	ウ	合理的	エ	健康・安全	オ	教科内
⑥	ア	技能	イ	F武道	ウ	合理的	エ	参画・共生	オ	学校全体

kyoshi-gunji.jp

問11　次の記述は総則関連事項について示されたものの一部である。

［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［21］。

3　道徳教育との関連（第１章総則第１款２（2））

～中略～

高等学校における道徳教育については，各教科・科目等の特質に応じ，学校の教育活動全体を通じて生徒が人間としての［ア］を主体的に探求し，豊かな自己形成ができるよう，適切な指導を行うことが求められている。

このため，各教科・科目においても目標や内容，配慮事項の中に関連する記述があり，保健体育科との関連をみると，特に次のような点を指摘することができる。

様々な運動の経験を通して，粘り強くやり遂げる，［イ］，集団に参加し［ウ］，自己の責任を果たす，一人一人の［エ］を大切にするといった態度が養われる。また，健康・安全についての理解は，健康の大切さを知り，生涯を通じて自らの健康を適切に管理し，［オ］ことにつながるものである。

（第１部　保健体育編　第３章　各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い
第３節　総則関連事項　３　道徳教育との関連（第１章総則第１款２（2）））

［21］の解答群

① ア　在り方生き方　イ　ルールを守る　ウ　交流する　エ　個性　オ　継続する
② ア　本質的な営み　イ　ルールを守る　ウ　交流する　エ　違い　オ　改善する
③ ア　在り方生き方　イ　課題意識を持つ　ウ　協力する　エ　個性　オ　継続する
④ ア　本質的な営み　イ　課題意識を持つ　ウ　協力する　エ　違い　オ　改善する
⑤ ア　在り方生き方　イ　ルールを守る　ウ　協力する　エ　違い　オ　改善する
⑥ ア　本質的な営み　イ　課題意識を持つ　ウ　交流する　エ　個性　オ　継続する

kyosai-guild.jp

〔５〕　体つくり運動について、次の各問いに答えなさい。

問１　次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、体つくり運動について示されているものの一部である。

［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［22］。

A　体つくり運動

［入学年次］

～中略～

(1) 知識及び運動

～中略～

イ　実生活に生かす運動の計画

実生活に生かす運動の計画では，自己の［ア］を振り返り，健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るために，［イ］運動の計画を立てて取り組むことが大切である。

ねらいに応じて運動を行うとは，健康に生活するための体力，運動を行うための体力を高めるなど，自己の体力に関するねらいを設定して，自己の健康や体力の実態と実生活に応じて，運動の計画を立てて取り組むことである。

健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むとは，中学校第１学年及び第２学年で学習した「ねらいに応じて，体の柔らかさ，［ウ］な動き，力強い動き，動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに，それらを組み合わせること」を踏まえて，［エ］する，体調を維持するなどの健康に生活するための体力や運動を行うための調和のとれた体力を高めていく運動の計画を立てて取り組むことである。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容「体育」　３　内容　A　体つくり運動）

［22］の解答群

①	ア	学校生活	イ	体の動きを高める	ウ	正確	エ　ストレスを解消
②	ア	学校生活	イ	筋力を高める	ウ	巧み	エ　ストレスを解消
③	ア	学校生活	イ	体の動きを高める	ウ	正確	エ　運動不足を解消
④	ア	日常生活	イ	体の動きを高める	ウ	巧み	エ　運動不足を解消
⑤	ア	日常生活	イ	筋力を高める	ウ	正確	エ　運動不足を解消
⑥	ア	日常生活	イ	筋力を高める	ウ	巧み	エ　ストレスを解消

kyosaibuild.jp

問2　次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、体つくり運動について示されているものの一部である。

［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［23］。

A　体つくり運動

～中略～

［入学年次の次の年次以降］

入学年次の次の年次（その次の年次）以降の体つくり運動では，体を動かす楽しさや心地よさを味わい，体つくり運動の行い方などを理解するとともに，実生活に役立てること，生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み，考えたことを［ア］こと及び体つくり運動に主体的に取り組むとともに，協力，参画，共生などの意欲を育み，健康・安全を確保することができるようにする。

なお，体つくり運動の体を動かす楽しさや心地よさを味わうこととは，体を動かすことを通して自己や仲間の心と体が［イ］心地よさや，運動課題の解決を通して仲間と関わる楽しさを味わうこと，他者と比較したり競争したりすることなく，［ウ］運動を選択し実生活に生かす運動の計画を立てることなどを通して，「する，みる，支える，知る」などのスポーツを多様に楽しむための［エ］を促すことである。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容
「体育」　３　内容　A　体つくり運動）

［23］の解答群

①	ア　動きで表現する	イ　解放される	ウ　自己に適した	エ　気付き
②	ア　他者に伝える	イ　解放される	ウ　状況に応じた	エ　主体性
③	ア　動きで表現する	イ　交流する	ウ　状況に応じた	エ　気付き
④	ア　他者に伝える	イ　解放される	ウ　自己に適した	エ　気付き
⑤	ア　動きで表現する	イ　交流する	ウ　状況に応じた	エ　主体性
⑥	ア　他者に伝える	イ　交流する	ウ　自己に適した	エ　主体性

kyosai-guild.jp

〔6〕 器械運動について、次の問いに答えなさい。

「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」における器械運動について、次の下線部（ｱ）～（ｵ）の正誤の組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は 24 。

B　器械運動

～中略～

[入学年次の次の年次以降]

～中略～

(1) 知識及び技能

器械運動について，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動について，技がよりよくできたり（ｱ）自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい，技の名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法，発表の仕方などを理解するとともに，自己に適した技で演技すること。

ア　マット運動では，（ｲ）回転系やジャンプ系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと，条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。

イ　鉄棒運動では，（ｳ）支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと，条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。

ウ　平均台運動では，（ｴ）柔軟系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと，条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。

エ　跳び箱運動では，（ｵ）跳躍系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと，条件を変えた技や発展技を行うこと。

24 の解答群

①	(ｱ)－正	(ｲ)－誤	(ｳ)－誤	(ｴ)－正	(ｵ)－正
②	(ｱ)－誤	(ｲ)－正	(ｳ)－誤	(ｴ)－正	(ｵ)－正
③	(ｱ)－正	(ｲ)－正	(ｳ)－誤	(ｴ)－正	(ｵ)－誤
④	(ｱ)－誤	(ｲ)－誤	(ｳ)－正	(ｴ)－誤	(ｵ)－正
⑤	(ｱ)－正	(ｲ)－誤	(ｳ)－正	(ｴ)－誤	(ｵ)－誤
⑥	(ｱ)－誤	(ｲ)－正	(ｳ)－正	(ｴ)－誤	(ｵ)－誤

kyosai-guild.jp

〔7〕　陸上競技について、次の問いに答えなさい。

次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、陸上競技について示されているものの一部である。

［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［25］。

C　陸上競技

［入学年次］

～中略～

(1) 知識及び技能

～中略～

○　技能

ア　短距離走・リレー

短距離走・リレーでは，［ア］なフォームを身に付けたり，バトンの受渡しで次走者のスピードを十分高めたりして，個人やリレーチームのタイムを短縮したり，競走したりできるようにする。

中間走とは，スタートダッシュでの加速を終え，ほぼ［イ］で走る区間の走りのことである。

つなぎを滑らかにしてとは，スタートダッシュからの加速に伴って［ウ］滑らかに中間走につなげることである。

次走者のスピードを十分高めるとは，前走者と次走者がスピードにのった状態でバトンの受渡しをするために，次走者のスピードを十分高めることである。

指導に際しては，走る距離は，短距離走で［エ］程度，リレーでは一人50～100m程度を目安とするが，生徒の体力や技能の程度やグラウンドの大きさに応じて弾力的に扱うようにする。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容　「体育」３　内容　C　陸上競技）

［25］の解答群

①	ア　きれい	イ　定速	ウ　勢いにのり	エ　100～200m
②	ア　きれい	イ　同じリズム	ウ　動きを変化させ	エ　50～150m
③	ア　きれい	イ　同じリズム	ウ　勢いにのり	エ　100～200m
④	ア　合理的	イ　同じリズム	ウ　動きを変化させ	エ　50～150m
⑤	ア　合理的	イ　定速	ウ　勢いにのり	エ　50～150m
⑥	ア　合理的	イ　定速	ウ　動きを変化させ	エ　100～200m

kyoshi-guild.jp

〔8〕 水泳について、次の問いに答えなさい。

次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、水泳について示されているものの一部である。

［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［26］。

> **D　水泳**
>
> **[入学年次]**
>
> ～中略～
>
> **(3) 学びに向かう力，人間性等**
>
> ～中略～
>
> **水泳の事故防止に関する心得**とは，自己の体力や技能の程度に応じて泳ぐ，無理な［ア］は意識障害の危険があるため行わない，溺れている人を見付けた時の対処としての［イ］と留意点を確認するなどといった健康・安全の心得を示している。
>
> **健康・安全を確保する**とは，水温や気温の低いときは［ウ］や水に入る時間に配慮して活動する，自己の体調や技能の程度に応じて段階的に練習するなどを通して，健康を維持したり自己や仲間の安全を保持したりすることを示している。そのため，プールや用具に関する取り扱い方，また練習場所に関する安全や体調に留意して運動するなどの留意点などを理解し，取り組めるようにする。
>
> なお，［エ］水に落ちた場合の対処の仕方については，安全への理解を一層深めるため，各学校の実態に応じて取り扱うことができるものとする。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容　「体育」3　内容　D　水泳）

［26］の解答群

①	ア　飛込み	イ　救助の仕方	ウ　活動の中止	エ　準備運動なしで
②	ア　潜水	イ　救助の仕方	ウ　活動の中止	エ　着衣のまま
③	ア　飛込み	イ　連絡の方法	ウ　活動の中止	エ　着衣のまま
④	ア　潜水	イ　連絡の方法	ウ　活動の仕方	エ　準備運動なしで
⑤	ア　飛込み	イ　連絡の方法	ウ　活動の仕方	エ　準備運動なしで
⑥	ア　潜水	イ　救助の仕方	ウ　活動の仕方	エ　着衣のまま

kyoshiguild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

著作権の関係で、掲載できません

kyosai-guild.jp

〔10〕　武道について、次の各問いに答えなさい。

問1　「2018年～2020年　国際柔道連盟試合審判規定（公益財団法人　全日本柔道連盟）」における試合終了の合図と同時に施された技について、次の(ア)～(オ)の正誤の組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は 33 。

(ア)　試合終了の合図と同時に施された技は、評価対象とならない。

(イ)　投技が試合終了の合図と同時に施されても、主審と副審、スーパーバイザー、審判委員が技の効果が直ちにはないと判断した場合、主審は「それまで」と宣告しなければならない。

(ウ)　試合終了の合図が鳴った後に施された技は、主審が「それまで」と宣告していなければ、有効とする。

(エ)　「抑え込み」が試合終了の合図と同時に宣告された場合、又は残り時間がその「抑え込み」の完了には不足である場合には、試合時間は「一本」（又は同等のもの）が宣告されるか、主審が「解けた」又は「待て」を宣告するまで延長される。

(オ)　「抑え込み」が継続している間、抑え込まれている「受」は関節技及び絞技を施すことができる。抑え込んでいる「取」が「参った」もしくは戦意を喪失した場合、抑え込まれている「受」の一本勝ちになる。

33 の解答群

①	(ア)－誤	(イ)－正	(ウ)－正	(エ)－誤	(オ)－正
②	(ア)－誤	(イ)－正	(ウ)－誤	(エ)－正	(オ)－正
③	(ア)－誤	(イ)－誤	(ウ)－正	(エ)－正	(オ)－誤
④	(ア)－正	(イ)－正	(ウ)－誤	(エ)－誤	(オ)－正
⑤	(ア)－正	(イ)－誤	(ウ)－正	(エ)－正	(オ)－誤
⑥	(ア)－正	(イ)－誤	(ウ)－正	(エ)－誤	(オ)－誤

kyosai-guild.jp

問２　次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、武道について示されているものの一部である。

［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［34］。

Ｆ　武道

～中略～

［入学年次の次の年次以降］

～中略～

(1) 知識及び技能

～中略～

○　技能

ア　柔道

～中略～

「基本となる技」とは，投げ技の基本となる技は，取（技をかける人）と受（技を受ける人）の双方が比較的安定して投げたり，受けたりすることのできる技のことであるが，この段階では既習技に加えて，出足払いなどの払い技系，払い腰，内股などの［ア］系などがある。また，固め技の基本となる技は，取と受の双方が，比較的安定して抑えたり，応じたり（逃れたり）することのできる技のことであるが，この段階では既習技に加え肩固め，［イ］がある。

［ウ］とは，自己の体力や技能の程度に応じて最も技をかけやすく，相手から効率的に一本を取ることができる技である。

［エ］とは，技をかけたときに，相手の防御に応じて，更に効率よく相手を投げたり抑えたりするためにかける技のことであり，［オ］とは，相手がかけてきた技に対し，そのまま切り返して投げたり，その技の力を利用して効率よく投げたりするためにかける技のことである。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容　「体育」３　内容　Ｆ　武道）

［34］の解答群

①	ア	担ぎ技	イ	けさ固め	ウ	得意技	エ	変化技	オ	連絡技
②	ア	担ぎ技	イ	縦四方固め	ウ	得意技	エ	連絡技	オ	変化技
③	ア	担ぎ技	イ	けさ固め	ウ	基本技	エ	変化技	オ	連絡技
④	ア	まわし技	イ	けさ固め	ウ	基本技	エ	変化技	オ	連絡技
⑤	ア	まわし技	イ	縦四方固め	ウ	得意技	エ	連絡技	オ	変化技
⑥	ア	まわし技	イ	縦四方固め	ウ	基本技	エ	連絡技	オ	変化技

kyosai-gui.jp

問３　「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」における武道について、次の（ｱ）～（ｵ）の正誤の組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は 35 。

Ｆ　武道

～中略～

［入学年次の次の年次以降］

～中略～

(1) 知識及び技能

～中略～

○　技能

～中略～

イ　剣道

～中略～

〈例示〉

○しかけ技

（ｱ）〈二段の技〉・最初の小手打ちに相手が対応したとき，隙ができた胴を打つこと。（小手－胴）

（ｲ）〈小手技〉・相手と接近した状態にあるとき，隙ができた小手を退きながら打つこと。（引き小手）

（ｳ）〈出ばな技〉・相手が打とうとして竹刀の先が上下に動いたとき，隙ができた小手を打つこと。（出ばな小手）

（ｴ）〈払い技〉・相手の竹刀を払ったとき，隙ができた小手を打つこと。（払い小手）

○応じ技

（ｵ）〈すり上げ技〉・相手が小手を打つとき，竹刀ですり上げて面を打つこと。（小手すり上げ面）

35 の解答群

①　（ｱ）－誤　（ｲ）－正　（ｳ）－正　（ｴ）－誤　（ｵ）－誤
②　（ｱ）－正　（ｲ）－正　（ｳ）－誤　（ｴ）－誤　（ｵ）－誤
③　（ｱ）－誤　（ｲ）－正　（ｳ）－誤　（ｴ）－正　（ｵ）－正
④　（ｱ）－正　（ｲ）－誤　（ｳ）－正　（ｴ）－正　（ｵ）－正
⑤　（ｱ）－誤　（ｲ）－誤　（ｳ）－正　（ｴ）－誤　（ｵ）－誤
⑥　（ｱ）－正　（ｲ）－誤　（ｳ）－誤　（ｴ）－正　（ｵ）－正

kyoshi-guild.jp

〔11〕　ダンスについて、次の問いに答えなさい。

次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、ダンスについて示されているものの一部である。

［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［36］。

> **G　ダンス**
>
> **［入学年次］**
>
> ダンスは，創作ダンス，フォークダンス，現代的なリズムのダンスで構成され，イメージを捉えた表現や踊りを通した交流を通して仲間との［ア］を豊かにすることを重視する運動で，仲間とともに感じを込めて踊ったり，イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。
>
> 中学校では，感じを込めて踊ったりみんなで［イ］踊ったりする楽しさや喜びを味わい，イメージを深めた表現や踊りを通した交流や発表ができるようにすることをねらいとして，第１学年及び第２学年は，「イメージを捉えた表現や踊りを通した交流をする」ことなどを，第３学年は，「イメージを深めた表現や踊りを通した交流や発表をする」ことなどを学習している。
>
> 高等学校では，これまでの学習を踏まえて，感じを込めて踊ったり仲間と［イ］踊ったり，自己や仲間の課題を解決したりするなどの［ウ］楽しさや喜びを味わい，「それぞれ［エ］表現や踊りを身に付けて交流や発表をする」ことなどができるようにすることが求められる。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容　「体育」３　内容　G　ダンス）

［36］の解答群

①	ア　コミュニケーション	イ　自由に	ウ　多様な	エ　特有の
②	ア　コミュニケーション	イ　自由に	ウ　満足する	エ　個性的な
③	ア　コミュニケーション	イ　協力して	ウ　多様な	エ　特有の
④	ア　人間関係	イ　自由に	ウ　満足する	エ　個性的な
⑤	ア　人間関係	イ　協力して	ウ　多様な	エ　個性的な
⑥	ア　人間関係	イ　協力して	ウ　満足する	エ　特有の

kyosai-guild.jp

〔12〕 体育理論について、次の各問いに答えなさい。

問1 次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編（平成30年７月）」の中で、体育理論について示されているものの一部である。

［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［37］。

H 体育理論

～中略～

2 運動やスポーツの効果的な学習の仕方

ア 知識

～中略～

(イ) スポーツの技術と技能及びその変化

個々の運動やスポーツを特徴付けている技術は，練習を通して身に付けられた［ア］な動き方としての技能という状態で発揮されること，技能には，［イ］スキル型と［ウ］スキル型の技能があること，［ウ］スキル型の技能は，対人的な競技などで絶えず変化する状況の下で多く発揮されること，［イ］スキル型の技能は，個人的な競技などで状況の変化が少ないところで多く発揮されること，その型の違いによって学習の仕方が異なることを理解できるようにする。

～中略～

その際，用具等の改良やメディアの発達は，［エ］を促したり，人々にとってスポーツをより身近なものにしたりする反面，ルールの変更につながったり，スポーツの商品化を促したりするとともに，時には，スポーツそのものをゆがめる可能性があることについても触れるようにする。

（第１部 保健体育編 第２章 保健体育科の目標及び内容 第２節 各科目の目標及び内容 「体育」３ 内容 H 体育理論）

［37］の解答群

①	ア スムーズ	イ クローズド	ウ オープン	エ 競技人口の増加
②	ア 合理的	イ オープン	ウ クローズド	エ 記録の向上
③	ア スムーズ	イ オープン	ウ クローズド	エ 競技人口の増加
④	ア 合理的	イ クローズド	ウ オープン	エ 競技人口の増加
⑤	ア スムーズ	イ オープン	ウ クローズド	エ 記録の向上
⑥	ア 合理的	イ クローズド	ウ オープン	エ 記録の向上

kyosai-guild.jp

問2　次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、体育理論について示されているものの一部である。

［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［38］。

H　体育理論

～中略～

3　豊かなスポーツライフの設計の仕方

ア　知識

(3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方について，課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解すること。

(ｱ)　スポーツは，各ライフステージにおける身体的，心理的，社会的特徴に応じた多様な楽しみ方があること。また，その楽しみ方は，個人のスポーツに対する［ア］などによっても変化すること。

(ｲ)　生涯にわたってスポーツを継続するためには，ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方を見付けること，［イ］と生活の調和を図ること，運動の機会を生み出す工夫をすることなどが必要であること。

(ｳ)　スポーツの推進は，様々な［ウ］や組織，人々の支援や参画によって支えられていること。

(ｴ)　人生に潤いをもたらす貴重な［エ］資源として，スポーツを未来に継承するためには，スポーツの可能性と問題点を踏まえて適切な「する，みる，支える，知る」などの関わりが求められること。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容　「体育」3　内容　H　体育理論）

［38］の解答群

①　ア　興味　イ　余暇　ウ　施策　エ　平和的
②　ア　欲求　イ　仕事　ウ　法令　エ　文化的
③　ア　興味　イ　仕事　ウ　施策　エ　文化的
④　ア　欲求　イ　仕事　ウ　施策　エ　文化的
⑤　ア　興味　イ　余暇　ウ　法令　エ　平和的
⑥　ア　欲求　イ　余暇　ウ　法令　エ　平和的

kyosai-guild.jp

〔13〕　保健について、次の各問いに答えなさい。

問1　次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、保健について示されているものの一部である。

［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［39］。

> **1　性格**
>
> ［ア］や情報化など社会の急激な変化による近年の児童生徒の［イ］環境や生活行動の変化，国民の疾病構造等の変化に関わって深刻化している心の健康，食生活をはじめとする生活習慣の乱れ，生活習慣病など，薬物乱用，性に関する問題など現代社会における健康・安全の問題は［ウ］しており，児童生徒のみならず国民全てにとって心身の健康の保持増進が大きな課題となってきている。
>
> これらの問題に対処するためには，ヘルスプロモーションの考え方を生かし，健康に関する個人の適切な意思決定や［エ］及び健康的な環境づくりの重要性について理解を深めるとともに，生涯の各段階における健康課題への対応と保健・医療制度や［オ］の保健・医療機関の適切な活用及び社会生活における健康の保持増進について理解できるようにし，心身の健康の保持増進を図るための思考力，判断力，表現力等や健康を大切にし明るく豊かに生活する態度などの資質や能力を育成することが重要である。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容「保健」1　性格）

［39］の解答群

①	ア	少子化	イ	学習	ウ	複雑化	エ	論理判断	オ　地域
②	ア	少子化	イ	成育	ウ	多様化	エ	行動選択	オ　地域
③	ア	少子化	イ	成育	ウ	複雑化	エ	行動選択	オ　社会
④	ア	高齢化	イ	学習	ウ	多様化	エ	論理判断	オ　社会
⑤	ア	高齢化	イ	成育	ウ	複雑化	エ	行動選択	オ　社会
⑥	ア	高齢化	イ	学習	ウ	多様化	エ	論理判断	オ　地域

kyosai-guild.jp

問２　次の記述は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　保健体育編　体育編（平成30年７月）」の中で、保健について示されているものの一部である。

［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［40］。

３　内容

(1) 現代社会と健康

～中略～

イ　思考力，判断力，表現力等

現代社会と健康に関わる事象や情報から課題を発見し，疾病等のリスクの軽減，生活の質の向上，健康を支える環境づくりなどと，解決方法を関連付けて考え，適切な方法を選択し，それらを［ア］することができるようにする。

＜例示＞

・現代社会と健康における事象や情報などについて，健康に関わる原則や［イ］を基に整理したり，個人及び社会生活と関連付けたりして，［ウ］や社会の課題を発見すること。

・国民の健康課題について，我が国の［エ］水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し，生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理すること。

・感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて，事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための［オ］の取組及び社会的な対策に応用すること。

（第１部　保健体育編　第２章　保健体育科の目標及び内容　第２節　各科目の目標及び内容「保健」３　内容　（１）現代社会と健康）

［40］の解答群

①	ア	解説	イ	知識	ウ	自他	エ	生活	オ	病院
②	ア	説明	イ	知識	ウ	自己	エ	健康	オ	病院
③	ア	解説	イ	概念	ウ	自他	エ	健康	オ	個人
④	ア	説明	イ	概念	ウ	自他	エ	健康	オ	個人
⑤	ア	解説	イ	概念	ウ	自己	エ	生活	オ	病院
⑥	ア	説明	イ	知識	ウ	自己	エ	生活	オ	個人

kyosai-guild.jp

問3　次の記述は、「令和６年版　厚生労働白書（令和５年度厚生労働行政年次報告）」（厚生労働省）の中で、国民健康づくり運動の展開について示されているものの一部である。

［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑤のうちから選びなさい。解答番号は［41］。

第７章　健康で安全な生活の確保

～中略～

第４節　国民の健康増進の取組み

1　国民健康づくり運動の展開

がん、循環器疾患、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの生活習慣病は、日本人の死因の［ア］を占めるなど、日本人の健康にとって大きな課題となっている。また、死亡のリスク要因を見てみると、喫煙などの個人の生活習慣と、これらと関係する高血圧、［イ］などが上位となっている。厚生労働省では、2000（平成12）年から一次予防の観点を重視した「21世紀における国民健康づくり運動」（「健康日本21」）を開始した。2003（平成15）年には、［ウ］が施行され、2011（平成23）年からは、幅広い企業連携を主体とした取組みとして「［エ］」を開始するなど、様々な取組みを進めてきた。

［41］の解答群

① ア　約５割　イ　肥満　ウ　健康増進法
　エ　QOL・プロジェクト

② ア　約３割　イ　肥満　ウ　健康促進法
　エ　QOL・プロジェクト

③ ア　約５割　イ　高血糖　ウ　健康促進法
　エ　スマート・ライフ・プロジェクト

④ ア　約３割　イ　高血糖　ウ　健康増進法
　エ　スマート・ライフ・プロジェクト

⑤ ア　約５割　イ　高血糖　ウ　健康増進法
　エ　スマート・ライフ・プロジェクト

kyosai-guild.jp

〔14〕「神奈川県の学校部活動に関する方針【改定版】（令和５年３月神奈川県　神奈川県教育委員会）」に示されている内容について、次の問いに答えなさい。

次の記述は、合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進について示されているものの一部である。

［ア］～［オ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［42］。

２　合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進

(1)　適切な指導の実施

ア　校長、部活動顧問、［ア］及び外部指導者は、学校部活動の実施に当たっては、生徒の心身の健康管理（スポーツ障害・外傷の予防や文化部活動中の障害・外傷の予防、バランスのとれた学校生活への配慮等を含む）、事故防止（活動場所における施設・設備の点検や活動における安全対策等）を徹底し、体罰・［イ］を根絶する。

特に運動部活動においては、［ウ］が平成25年５月に作成した「運動部活動での指導のガイドライン」に則った指導を行う。学校の設置者は、学校におけるこれらの取組が徹底されるよう［エ］等も踏まえ、適宜、支援及び指導・是正を行う。

イ　運動部活動の部活動顧問、［ア］及び外部指導者は、［オ］からは、トレーニング効果を得るために休養等を適切に取ることが必要であること、また、過度の練習がスポーツ障害・外傷のリスクを高め、必ずしも体力・運動能力の向上につながらないこと等を正しく理解し、分野の特性等を踏えた効率的・効果的なトレーニングの積極的な導入等により、休養等を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を行う。

［42］の解答群

① ア　部活動指導員　　イ　ハラスメント　　ウ　文部科学省
　 エ　学校保健衛生法　　オ　スポーツ医・科学の見地

② ア　部活動指導員　　イ　不適切な指導　　ウ　スポーツ庁
　 エ　学校保健安全法　　オ　過去の経験則

③ ア　部活動指導員　　イ　ハラスメント　　ウ　文部科学省
　 エ　学校保健安全法　　オ　スポーツ医・科学の見地

④ ア　部活動インストラクター　　イ　ハラスメント　　ウ　スポーツ庁
　 エ　学校保健衛生法　　オ　過去の経験則

⑤ ア　部活動インストラクター　　イ　不適切な指導　　ウ　文部科学省
　 エ　学校保健安全法　　オ　スポーツ医・科学の見地

⑥ ア　部活動インストラクター　　イ　不適切な指導　　ウ　スポーツ庁
　 エ　学校保健衛生法　　オ　過去の経験則

kyosai-sund.jp

〔15〕　神奈川県が作成した「健康・未病学習教材　(高校生用副教材) 令和６年12月第四版」に示されている内容について、次の問いに答えなさい。

次の記述は、私たちが暮らす未来に向けてについて示されているものの一部である。
［ア］～［エ］に当てはまるものの組合せとして最も適切なものを、後の①～⑥のうちから選びなさい。解答番号は［43］。

> **Ⅰ　私たちが暮らす未来に向けて**
> **「健康寿命」とは　「未病」とは**
>
> 私たちは、人類が経験したことのない超高齢社会を迎えています。少子高齢化の進む日本、そして神奈川県では、［ア］の減少、［イ］の増大などの問題が容赦なく進みます。そこで注目されているのが「健康寿命※」の延伸です。私たちの未来に向けて、健康寿命を延ばすための未病改善、［ウ］が支えるヘルスケアを学びます。
> ～中略～
> **※「健康寿命」とは**
> 一般的に「平均寿命から寝たきりや認知症など［エ］の期間を差し引いた期間」をいいます。(厚生労働省e-ヘルスネットより)

［43］の解答群

①	ア	人口	イ	医療費	ウ	AI技術	エ　介護
②	ア	労働力	イ	医療費	ウ	AI技術	エ　入院
③	ア	人口	イ	介護費	ウ	AI技術	エ　介護
④	ア	労働力	イ	介護費	ウ	最新技術	エ　入院
⑤	ア	人口	イ	介護費	ウ	最新技術	エ　入院
⑥	ア	労働力	イ	医療費	ウ	最新技術	エ　介護

kyosai-guild.jp

令和７年度実施教員採用候補者選考試験
教科専門試験［高等学校　保健体育］　　正答及び配点

解答番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正答	①	③	②	③	④	①	④	③	①	②
配点	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
解答番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
正答	②	③	⑥	⑥	④	②	③	⑤	⑤	①
配点	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
解答番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正答	⑤	④	④	⑤	⑥	⑥	②	①	③	①
配点	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
解答番号	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
正答	②	①	②	⑤	④	①	⑥	④	②	④
配点	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
解答番号	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
正答	⑤	③	⑥							
配点	3	3	3							

kyosai-gunma